

ひろこ
原裕子さん（植野）

青少年育成高知県民会議の主催により県庁の正庁ホールで行われた「親の主張子の主張」大会。そこで、自分の子育て奮闘記や家族のつながりについて発表をし、優秀賞に選ばれたのが原裕子さんです。



知人の勧めで、気軽に書いたものがどういう訳か優秀賞をとってしまいました。今までの自分の経験を話せばよかったので、あまり緊張もしなかったし、わけもわからずにやったのがよかったのかも。これまでにいろいろ問題もありましたが、今家族はすごく仲が良く、和気あいあいです。



山岡耕作さん（物部）

高校に赴任してきて七年目現在、高知大で助教授をされている山岡さん、魚を煎り巻くいろいろな環境について学ぶ「魚養生煎巻」を教えています。

ラグビーが好きで、今「鯨豚クラブ」という四十歳以上のチームに入っています。日ごろの運動不足のせいか、体力不足をひしひしと感じますね。もっと鍛えなくては。たまに学生たちと家でパーベニューカドをしますが、楽しいですよ。家が密集してないのでまわりを気にすることないし、それまで住んでいた京都の煩雑さと比べ、広々として生活しやすいところですね。

国策樹立の運動②

同和对策審議会は、一九五八（昭和三三）年、部落解放国策樹立要求全国代表者会議との交渉の中で、政府代表が「この問題は国策として取り上げるべきで、政党や思想を超えた社会正義の立場から解決しなければならぬ。」と発言し、これを受けて設置されたものです。

この審議会は、「同和問題の解決のために必要な総合的施策の樹立、その他同和地区に関する社会的及び経済的諸問題の解決に關する重要事項について調査審議」を行い、これらの事項について内閣総理大臣の諮問に答申することを目指す。内閣総理大臣によって任命された委員二十人以内によって組織されることとなっていました。

しかし、なかなか委員が任命されず、審議会が開けない状態が続いていました。部落解放同盟は、この状態

戦後の解放運動・教育・行政が
どのように行われたか⑱

を打開するため、政府に対して、一九六一（昭和三六）年、一月月にわたる国策樹立請願運動に取り組みました。

「請願行動隊」と書いたハチ巻きとタスキ姿の行動隊が福岡から東京までの約一二〇〇キロを行進したのです。

その間、また解放運動に立ちあがって

いなかった地域を含め一〇〇

〇カ所で集会

を開き、地方

自治体との交

渉をくり返し

市民、労働者

との連帯を強

めながら、広く世論に訴えて

いきました。

そして、行動隊の代表は、民主団体や地方自治体の協力を得て、政府に対して同和对策審議会の早期発足などを求めていったのです。

こうした運動の高まりにおされ、政府は、設置法制定から一年三カ月後の一九六一（昭和三六）年十一月、よう

同和教育 シリーズ

やく、二十人の委員を任命しました。その中には、運動団体代表を含む九人が民間から任命されており、特に地区の人々の声を代表して、部落解放同盟・同和会の幹部が参加する画期的な委員構成となっていました。

一九六一（昭和三六）年十二月、第一回総会を開いた同和对策審議会は、同和地区の正確な実態を把握するため、調査部会を設け、全国の同和地区の実態調査を行いました。その結果をふまえて、教育、環境改善、産業・職業部会などで慎重に審議を重ねていきました。そして、各部会からの最終報告を総会でまとめていきました。

一九六五（昭和四〇）年八月、同和对策審議会は、「同和地区に関する社会的経済的諸問題を解決するための基本的方策について」と題する答申を、ときの佐藤栄作総理大臣に手渡しました。これがいわゆる「同和对策審議会答申（同対審答申）」です。